



### 市長インタビュー

#### 「行政経営」の視点で 充実した市民サービスを

●行政改革における「行政経営」という考え方についてお聞かせください。

齋藤市長 経済成長が続き、市の予算も毎年度拡大していくという時代は終わりました。これからは、限られた資源を戦略的にどのようにやりくりするかということを常に考える必要があります。

行政改革というと、経費の切り詰めだけのイメージを持たれる方が多いかと思いますが。もちろん、無駄な経費を削減することは必要ですが、それだけではなく、これからは新たな市民ニーズへの対応を、前向きな取り組みとして進めていきたいと考えています。

すなわち、「行政経営」とは、必要なサービスを切り捨てるのではなく、中・長期的な展望に立って、市民の皆さんの満足度を最大限に高めるために、事業の選択と資源の集中を行おうとする考え方で。

●事務事業評価のねらいはどのようなものでしょうか。

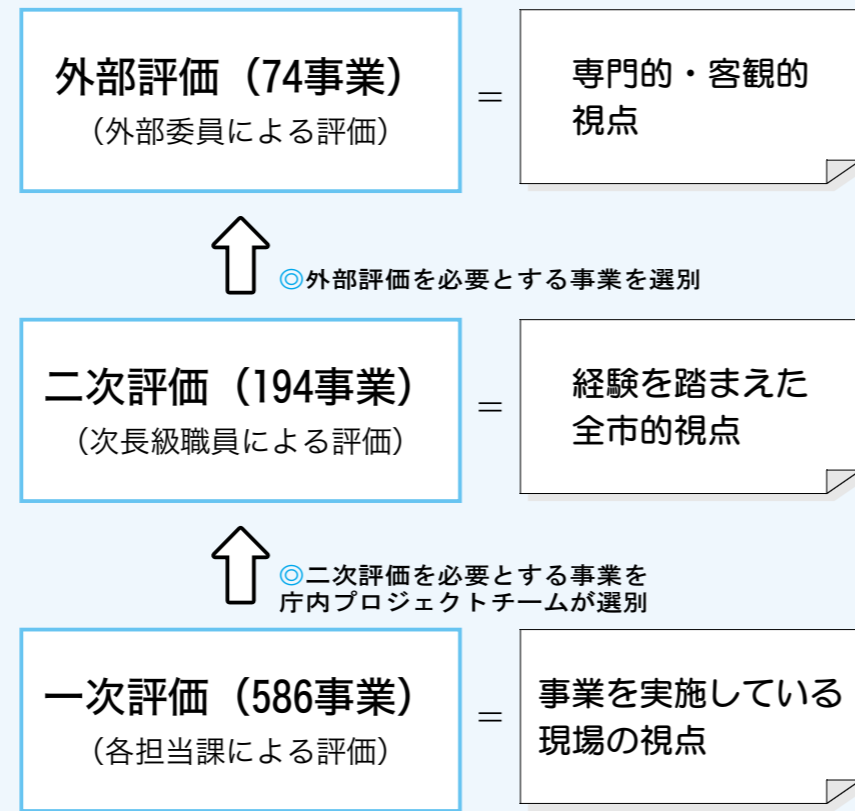
市長 現在行っている仕事を、「税金を使って行うべき仕事かどうか」「成果は上がっているか」「もっと効率的なやり方はないか」等、市民の目線で見直し、それを業務に反映させることによって、よりよい行政運営につなげていくことを目指しています。さらに、評価を計画や予算と連携させ、継続的に改善を進めていくうえでの有効な手段として、充実させていきたいと考えています。

また、昨年度を「行政評価公表元年」とし、他市に先駆けて評価表の全面公開を行いました。このことにより、市民の皆さんと情報の共有化が図れ、市政に対してより理解を深めていただければと考えています。

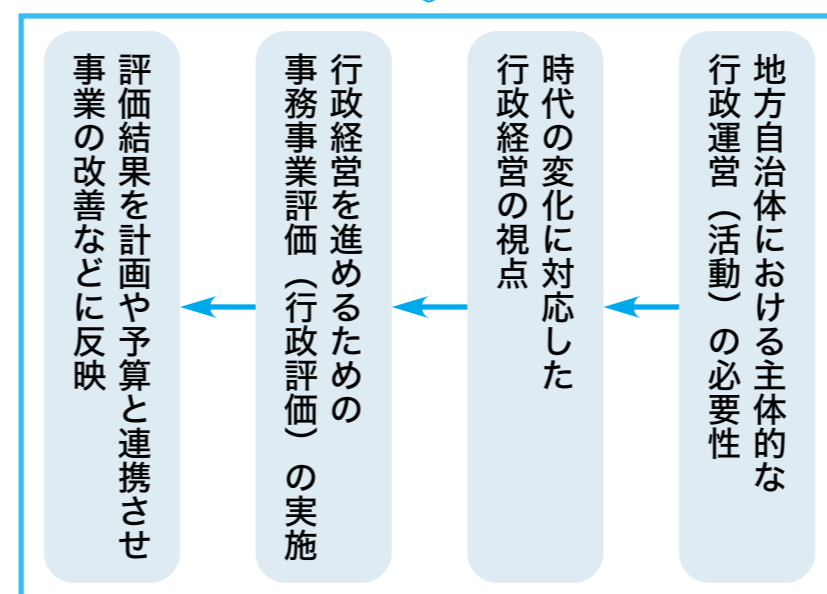
# 限られた資源の中で、 今、すべきことは…。

## 平成15年度事務事業評価の過程

～市民の視点を踏まえて～



## 厳しい財政事情と時代の変化



よりよい行政運営⇒市民サービスの充実

無駄をなくして、必要なお金をお金を使おう!



市では、厳しい財政状況の中で、地方が主役となる時代にふさわしい行政を実現するために、行政改革に経営的視点を積極的に取り入れています。今回は、市が実施している事務や事業を客観的に評価する事務事業評価を中心に、行政改革の現状を市民の皆さんにお知らせします。 ※問い合わせ 行政改革推進室(☎9027・FAX2994-0706)

# 時代の変化に対応し、 個性的なまちづくりを実現するために 「行政経営」の視点を取り入れよう

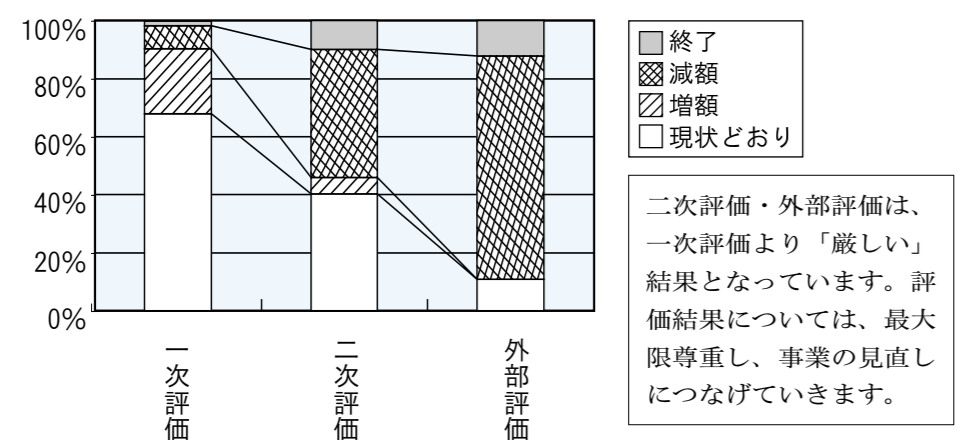
### 行政経営戦略会議委員 (敬称略)

委員名	現職	職	備考
山田 裕通	所沢商工会議所会頭		
廣瀬 克哉	法政大学教授		○
星野 芳昭	㈱日本能率協会コンサルティング、行政経営アドバイザー		○
福田 志乃	地域政策プランナー		
山村 正二郎	公認会計士(監査法人トーマツ)		○

◎備考欄に○印のある委員には、事務事業評価における外部評価を依頼。

### 平成15年度事務事業評価の結果 (予算措置に関する評価。件数は内訳)

	現状どおり	増	減	終	了			
一次評価 (586事業)	67.9%	398件	22.5%	132件	7.9%	46件	1.7%	10件
二次評価 (194事業)	40.2%	78件	5.7%	11件	44.3%	86件	9.8%	19件
外部評価 (74事業)	10.8%	8件	0.0%	0件	77.0%	57件	12.2%	9件



～行政改革に関するご意見やご要望をお寄せください～  
連絡先 行政改革推進室(☎9027・FAX2994-0706/Eメールアドレス a9027@city.tokorozawa.saitama.jp)



行政経営戦略会議の様子

所沢市行政経営戦略会議  
市政に行政経営の考え方を取り入れ、行政改革を一層推進することを旨として、「所沢市行政経営戦略会議」を設置しました。市政の今後のあり方などについて、委員の方々に熱心な議論をしていただいています。

◎会議録は、市ホームページ(アドレスは表紙参照)でご覧になれます。  
事務事業評価  
市では、行政経営を進めるために事務事業評価を平成14年度から実施しています。  
「事務事業評価」とは…  
市が実施している事務や事業を、成果や効率性の観点から、客観的な数値などを用いて評価し、その結果を改善につなげていくという取り組みです。  
「行政経営」を進めるための基礎的な手法として活用されています。

◎事務事業評価は、昨年度に引き続きすべて公開します。市役所1階・市政情報センターまたは市ホームページ(アドレスは表紙参照)でご覧になれます。  
来年度は、評価の対象をさらに拡大し、原則として全事務事業について評価を行います。また、評価結果を基に、さらに行政経営の視点を取り入れた行政改革を進め、市民サービスの充実に向けていきます。

「行政経営」とは…  
「経営」といっても、利益を上げるものではありません。「行政経営」とは、危機的な財政状況を乗り越え、市としての責任を果たしていくために、「限られた資源(人・お金等)の中で、しっかりと戦略を定め、自律的な行政を行うこと」を意味しています。

変化が求められている背景  
右肩上がり成長する時代が終わり、社会が成熟化していく中で、行政もこれまでの考え方を見直す必要性が迫られています。市の財政状況は年々厳しくなっていますが、これは景気の低迷による一過性のものではないと考えなければなりません(下記グラフ参照)。  
「時代の変化」  
これまでには…  
●成長・量的拡大  
●危機は一過性であり、やがて回復  
●これも、これも  
●国に権限が集中  
●これからは…  
●成熟・質的充実  
●構造変化への対応の遅れによる危機  
●あれか、これか  
●地方が主役  
こうした環境の変化に対応するために、市では「行政経営」の考え方を取り入れ、一層の市民サービスの充実を目指しています。



心の温まる  
事業を大切に  
山本千鶴子さん  
(久米在住)

地域に貢献するために、社会福祉協議会が行っている「ふれあい配食サービス」に携わっています。高齢者の方々がうかがえ、よい事業だと思います。このような心の温まる事業を大切に考えてほしいですね。それには市民と行政のパートナーシップが重要でしょう。いずれは予算編成にも市民が参画できれば、今まで以上に市民ニーズに合ったものが生まれる可能性が高いと思います。所沢に住んで良かったと思えること。私たちはそれを望んでいます。



事業の評価は  
市民の目線で  
おおかわら けんじさん  
(花園在住)

日ごろ、子育て支援や公園設置などの充実を願っています。これらを含めた事業全体の目線としては、「市民は今、何を望んでいるか」といった市民の目線での評価が重要だと感じます。そして、慣例的なものを実績に合ったものにしていくことが必要ではないでしょうか。また、私たちが事業の評価結果に目を向けることも忘れてはならないことだと思います。その結果、自分たちに良い結果となってかえってくると信じています。

### 所沢市の財政の将来予測

